

◆◆◆ 刑を終えて出所した人 ◆◆◆

刑を終えて出所した人たちに対する偏見や差別は根強いものがあります。時には、親族からの援助を受けられず生活に行き詰ってしまったり、社会復帰を目指しても、前歴等が流布され、本人の更正意欲が失われてしまうなど、多くの問題が発生しています。

また、刑を終えて出所した人たちの家族に対しても、罪を犯した人の家族であるというだけで、偏見や差別を受けることがあります。

これらの人たちに対する偏見や差別をなくすため、毎年7月を強調月間として、“社会を明るくする運動”を実施しています。野木町でも、小山保護区保護司会野木支部と更生保護女性会が、青少年の健全育成、非行や犯罪の防止、そして罪を犯した人たちの更正について理解を深めることを目的とした運動を行っており、この運動は、今年で69回目の開催となりました。※

刑を終えて出所した人たちが、地域の一員として円滑な生活を営むためには、本人の強い更生意欲はもとより、家庭・職場・地域社会等のすべての人たちが理解し、協力することが重要です。

※野木町では7月2日(火)に、第69回「社会を明るくする運動」メッセージ伝達式が行われました。46ページに当日の内容等が掲載されていますので、ぜひご覧ください！

問生活環境課 問(57)4132

広報連絡委員レポート №.399

今、何を想っているのだろうか？
日本近代化を支えたシンボル「煉瓦窯」

広報連絡委員

小村 敏雄



「野木町煉瓦窯（旧下野煉化製造会社煉瓦窯 以降は煉瓦窯）」は令和元年5月18日・19日、グラントオープン3周年感謝祭を開催し、盛沢山の特別企画、フラワーカーペット、煉瓦窯の見学ツアー、特別展示（煉瓦窯2階での展示を含む）、クラシックカーイベント、模擬店、ポニー広場などに、両日で約1万4千人もの来場者が訪れ、盛況のうちに終了しました。

この煉瓦窯は、政府の殖産興業策が奏功し、全国各地に企業が設立され本格的な「産業革命」が始まった明治20年代に築造され、昭和46年までの約80年間赤煉瓦製造を続けました。昭和54年に国の重要文化財に指定され、さらに平成19年には、「近代化産業遺産群」の一つに選定されました。

平成23年7月からは、国・栃木県からの支援により保存修理事業が開始され、26年9月に終了しました。28年5月には、グラントオープン

ブンにより一般公開を開始しました。

ここに至るまで、大正12年の関東大震災、昭和21年キャサリン台風や平成23年東日本大震災などの自然災害や、明治27年日清戦争ほか、日露、第一次・第二次の大戦などの戦乱を乗り越え、明治・大正・昭和・平成・令和と5世代を経てきました。

私は煉瓦窯のガイドをして、各種イベント、講座を含み、この美しい遺産を後世に語り伝承しております。が、ふと煉瓦窯は完成当時より時代の変遷を如何に想っていたのだろうか？私はレンガ造りに携わった先人たちの努力の証を全て伝えられているのだろうか？と思うことがあります。

今後も、煉瓦窯の魅力を余すことなく後世に伝えていけるよう、考えていきたいと思えます。



2階特別展示